

~News letter~

かもみーる通信

52号 2014年10月

トピックス

- * 女性の就職とキャリア形成
- * 岐阜大学フォーラム
- * なでしこ教養セミナー
- * カモミール月曆
- * あなたが創る未来に向けて
- * 保育園たより



女性の就職とキャリア形成

日時：11月1日（土）14：00～16：00
場所：地域科学部 第一会議室
講演者：岐阜大学出身の先輩社会人
対象：岐阜大学在学学生および教職員
 一般社会人（男女問わず）



教育推進・学生支援機構キャリア支援部門および男女共同参画推進室の共催企画として、「女性の就職とキャリア形成」を開催します。

女子学生の就職に関しては、社会の担い手としてその重要性が指摘されています。しかし、女性が仕事を続けキャリア形成を図るには様々な社会的課題があります。一方で、学生にとってそのような課題は、未知な部分が多く、具体的な課題の認識が曖昧なものにとどまってしまうことがあります。

このような状況に対応するためには、学生のうちから先輩社会人と交流をはかり、将来起こりうる課題に対する認識を深め主体的な解決の方向を見出すことが大切です。

そこで、教育推進・学生支援機構キャリア支援部門と男女共同参画推進室では、女子学生の就業促進、キャリア形成の主体的検討を促す機会を提供するために、在学学生と岐阜大学出身の先輩社会人とが交流を深めるセミナーを企画しました。

セミナーでは、先輩社会人に具体的な課題克服方法や学生のうちから考えておくべき事柄についてお話しいただきます。

本企画は、男女関わらず参加できます。学生や教職員の皆さんに、参加をご推奨下さいますようお願いいたします。



へ〜、
そうなんだあ

あのね
……

女性の就職の実際を知り、職場でのキャリアアップを考える
先輩社会人と在学学生との交流会

“女性の就職とキャリア形成”

日時：11月1日（土）14:00～16:00
場所：地域科学部 第一会議室 （非公開案内図参照）



女性の社会での活躍が期待されています。しかし、女性にとって家庭と仕事の両立には大きなハードルが…。これから女性が働き続けるには、何が必要なのか、どう障害を乗り越えたらよいのか、岐阜大学OGの方と一緒に考えましょう。「男女共働」を実現するためにも、男性の方もぜひご参加ください。

- パネリスト：（卒業生推薦）
 公立試験院 / 研究員（農学部1991年度）
 製造業（化粧品） / 品質管理（工学部1995年度）
 私立大学 / ラーニングコーディネーター（地域科学部2000年度）
 銀行 / 総合職（地域科学部2000年度）
 製造業（セラミック） / 技術職（工学部2004年度）

費：当日参加も受け付けますが、準備の関係上、お問合せ先まで予め申し込みいただきますようお願いいたします。

主催：キャリア支援部門、男女共同参画推進室
協力：岐阜大学同窓会連合会



岐阜大学 （所在地） 岐阜大学キャリアセンター TEL:058-293-3393 e-mail:career@gsu-u.ac.jp

第43回

岐阜大学フォーラム



『グローバル化時代の大学のダイバーシティ推進 ～男女共同参画をふまえて～』

日時：平成26年12月8日（月） 15：30～16：45

場所：岐阜大学講堂

講師：江原 由美子 氏

首都大学東京 副学長(教育・評価・ダイバーシティ担当)

専門は理論社会学、ジェンダー研究

主要な著書 『装置としての性支配』

『ジェンダー秩序』

『自己決定権とジェンダー』

第43回 岐阜大学フォーラム

グローバル化時代の 大学のダイバーシティ推進 ～男女共同参画をふまえて～

と き：12月8日（月）15:30-16:45
と ころ：岐阜大学講堂

岐阜大学 副学長(教育・評価・ダイバーシティ担当)

江原 由美子 氏



グローバル化時代の大学のダイバーシティ推進、男女共同参画をふまえて、その意義、岐阜大学のダイバーシティ推進が、求められている。男女共同参画とダイバーシティ推進は、互いに補完的な関係性があるため、男女共同参画推進によってダイバーシティ推進が促進されること、また、ダイバーシティ推進が男女共同参画を促進することもある。

専門は理論社会学、ジェンダー研究。主要な著書に『装置としての性支配』、『ジェンダー秩序』、『自立社会とジェンダー』などがある。ジェンダーと社会構造の関係性や理論的に展開し、ジェンダー研究の第一人者として知られている。

プロフィール：岐阜大学大学院社会科学研究科 准教授 2009年～2014年

Forum @ Gifu-u.

今回のフォーラムでは、性差のみならず、年齢・国籍・職掌の違い、障がいの有無など、異なる属性による互いの違いを尊重し、構成員ひとりひとりが能力を遺憾なく発揮できる大学づくりをめざして、多様性人材活力推進の必要性や今後の活動の方向性について、参加者の皆さんとともに考えることをめざしています。

本フォーラムが、岐阜大学における今後の多様性人材活力推進の取り組みの原動力となり、また、地域における多様性人材活力発揮に向けての課題や方策を考える機会となることを願っています。

なでしこ教養セミナー



10月18日（土） じゅうろくプラザにて開催しました。

ことばとコミュニケーションの心理 ～滑らかに話せない～

教育学部 村瀬 忍 教授



なめらかに話せない経験はありますか？ ことばがつまることは誰にでもあります。日常的にことばがつまってつらい思いをしている人たちがいます。女性は男性にくらべて約4分の1の割合ですが、ことばがつまることを気にしている人は、男女あわせて約100人に一人もいます。このような、ことばがつまる症状を「吃音（きつおん）」と呼びます。日本だけでなく、世界中、どの言語でも、どの人種でも、同じような割合で生じていることが知られています。吃音は子どもの頃から症状がみられるため、わが子の吃音を心配している母親は少なくありません。なぜ吃音になるのか？ 吃音はどのようにしたら治るのか？ 吃音は心理的な理由で起こるとは考えられていません。吃音の人は焦ったり、慌てたりしていませんし、ゆっくり話せばつもらないで話せるわけでもありません。正確に理解されていない吃音。コミュニケーションの心理から、聞き手の配慮を考察します。

次回

11月29日（土） 14：00～15：30 岐阜大学サテライトキャンパスにて

「生活の近代化と生活改善運動 ～和洋折衷服を考案した尾崎芳太郎の挑戦～」教育学部 夫馬佳代子 教授

ネットワーク大学コンソーシアム岐阜の共同プログラム「女性の活躍 なでしこ教養セミナー」とは？

岐阜大学の女性教員10名による、それぞれの専門分野を活かしたリレー講義（全10回）で、コンソーシアム加盟大学の学生、とくに女子学生に対しては、女性研究者としてのロールモデルを提示するとともに、教職員と一般市民の方々には、幅広い知識を涵養する教養講座としての機会を提供することを趣旨としています。



カモミール月曆（室長からのメッセージ）



副学長（多様性人材活力推進担当） 林 正子

9月下旬に、次の2つのシンポジウムを聴講し、男女共同参画推進を中核とする「多様性人材活力推進」に向けての今後の活動に、大いなる示唆と刺激を得ました。「一般社団法人ジャパンダイバーシティネットワークのキックオフシンポジウム Diversity is the Game Changer ダイバーシティが社会を変える」と「日独国際シンポジウム 学術研究職におけるジェンダー ドイツの取り組みの実践例——男女共同参画、多様性と機会均等、仕事と生活の調和——」（主催：ドイツ研究振興協会（DFG）、日本大学、津田塾大学、東京都市大学）です。紙面の都合で、今号では前者の概略をご報告します。

Diversity is the Game Changer ダイバーシティが社会を変える

2014年9月19日（金）、ホテル椿山荘（東京）で開催されたこのシンポジウムの主催団体「ジャパンダイバーシティネットワーク」は、日本経団連、経済同友会等の経済団体、連合、日本医師会、日本看護協会、教育関係等の各団体、自治体、女性支援・ダイバーシティ支援団体など、約70の団体が参加して、本年4月に設立された一般社団法人です。代表理事の内永ゆか子氏によって、「全国の団体、公益法人、業界団体、教育機関、個人など多くの方々にご参加いただき、ダイバーシティ女性活用を実現してゆくための問題の共有、意見交換、また提言等を行うための場“プラットフォーム”を提供してゆくこと」と、その目的が語られました。

内閣府男女共同参画局、外務省、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省の後援ということもあって、キックオフシンポジウムには、数多くの業界から約900名の参加者がありました。NEWS ZERO メーンキャスターの村尾信尚氏が総合司会を務め、日本経団連審議会副議長・資生堂相談役の前田新造氏と厚生労働事務次官の村木厚子氏による基調講演に続いて、3つのパネルディスカッション「意思決定層への女性登用～組織が変わる～」 「女性の意識改革～女性が変わる～」 「生産性の高い働き方～社会が変わる～」が、道傳愛子氏、長谷川閑史、古賀伸明氏、横倉義武氏はじめ19名の錚々たるモデレーターやパネリストによって繰り広げられました。

（プログラムの詳細は、http://diversity.or.jp/?page_id=261をどうぞご覧ください。）

国立大学協会からは副会長の羽入佐和子氏（お茶の水女子大学学長）が登壇し、「アクションプラン」の概要と4提言が紹介されました。すなわち、

- 国立大学の女性教員比率を20%以上に引き上げることを目指しつつ、少なくとも2015年までに17%以上（各大学において1年ごとに1%以上）に引き上げることを達成目標として設定する。
- 目標達成のために大学が取り組むべき事項を提言し、それらの実施状況についてフォローアップを行う。

- 【提言1】男女共同参画の推進体制の整備
- 【提言2】女性教員・研究者の拡大
- 【提言3】就業環境の整備・拡充
- 【提言4】意識啓発の推進



このような国立大学協会の男女共同参画に係る方針が各界の参加者に提示され、「大学におけるダイバーシティ促進の重要性と課題」が改めて確認されました。

スペシャルゲストとして駐日米国大使のキャロライン・ケネディ氏の登場、安倍晋三首相のビデオメッセージ、下村博文文部科学大臣、塩崎恭久厚生労働大臣、有村治子女性活躍担当大臣、森まさこ前男女共同参画担当大臣らの来場もあり、話題性に富むシンポジウムとなりましたが、何よりも、「Diversity is the Game Changer ダイバーシティが社会を変える」との合言葉のもと、女性の登用や意識改革に向けて、多種多様な団体や個人によって諸課題克服やめざす方向性が確認され、さらには、政策提言や国内外への発信など、創造的な活動の実現に道を開いたことは、日本における多様性人材活力発揮に向けての取り組みの画期的な一頁であったと言えるでしょう。その成果について、岐阜大学における多様性人材活力推進の基本方針・行動計画を実践する上でも、大いに参照し活用してゆけるものと思います。

